

姉属性専門誌

全姉連会報

第4号

2005年

姉作品 総レビュー

白衣の姉天使・涼子姉さんが姉2人引き連れて帰ってきた！

『姉汁 ～白川三姉妹におまかせ～』

つつみ先生の姉コミック待望の新刊

『姉の媚乳』

お姉ちゃん大好きな姉属性スタッフ謹製の姉ゲー

『ONE☆BOKU ～お姉ちゃんとボク～』

一冊丸ごとお姉ちゃんだらけな文庫

『姉☆コレクション』

家庭教師おねえさんハーレムと化した一夏の思い出

『家庭教師のおねえさん』

生きるためにお姉ちゃんと子作りに励め！

『姉☆孕みつくす』

月9の世界からお姉ちゃん警報発令！

『危険なアネキ』

今年最大の話題の溺愛姉・「ま～姉ちゃん」の真価を問う

『パルフェ ～ショコラ second brew ～』

他、姉ノベル批評2編も収録

初めましての弟さんも、おなじみの弟さんもこんにちは。
この度は全姉連会報をお手にとっていただき、ありがとうございます。
無事「全姉連会報第4号」の発行に至りました。

＊

まず、全姉連のご紹介を。

全姉連は「お姉さん」の魅力を世界に広め、推進していく非政府組織(NGO)です。
姉属性の普及、弟同志の情報交換を主に行っています。
全姉連総本部は普段 Web サイト上で主に活動していますが、
C65 よりコミケへ進出しました。

本書は、私・全姉連総裁が実際に触れて体験した
姉ゲー・姉コミックなどについてレポートするものです。
良い姉作品には惜しめない賛辞を、
不満足な姉作品には容赦ない指摘を加えます。

＊

2005 年の姉業界を振り返ってみると、
大衆向けアニメやドラマに登場する姉が、
我ら姉属性以外にも広く受け容れられるようになってきました。
姉属性人口の少なさを嘆いておきながらも、
「このお姉ちゃんの良さは、僕らにしか分からない」
と優越感に浸っていたのも過去の話。
本当に素敵な姉キャラには、誰も彼もが寄ってくる時代。
喜ばしいことなのに、ちょっと複雑な弟心。

＊

それでは、本書が迷える弟のよりよい姉ライフの一助となることを祈って。

全姉連会報 第4号

目 次

■ 『姉汁～白川三姉妹におまかせ』（アトリエかぐや）	6
■ 『姉の媚乳(むね)』（つつみあかり著）	9
■ 『ONE☆BOKU～お姉ちゃんとボク』（LUCHA!）	10
■ 『姉☆コレクション』／再録	13
■ 『家庭教師のおねえさん』（アトリエかぐや）	16
■ 『姉☆孕みっくす』（Lilith）／再録	18
■ 『危険なアネキ』（フジテレビ）	20
■ 2005 年上半期 姉ノベル批評／再録	21
■ 『パルフェ～chocolat second brew ～』（戯画）／再録	22

2005年

姉モノ レビュー

『姉汁～白川三姉妹におまかせ』

『姉の媚乳』

『ONE☆BOKU Faraway so close!～お姉ちゃんとボク～』

『姉☆コレクション』

『家庭教師のおねえさん』

『姉☆孕みつくす』

『危険なアネキ』

『パルフェ ～chocolat second brew～』

『姉、ちゃんとしようよっ！2 番外編』

『お姉ちゃんとあそぼ』

- ・全てのレビューは、私・全姉連総裁が実際に体験して書かれています。
- ・評価は、「姉萌え」観点からなされていることに十分ご注意下さい。
いかに一般的な観点からは良い作品でも、姉萌え度が低い作品には
評価が厳しくなっています。（もちろん逆の場合もあります。）
- ・“ジャンル”は、メーカー公称のジャンル名です。
- ・各レビュー冒頭のあらすじは、メーカーによる紹介文の引用です。
- ・極力ネタバレしないように書いています。もっとも、個人差がありますので、ご注意下さい。
- ・おおむね 2005 年に発売された姉モノを中心にしていますが、過去のものでも気になったものは構わず書いています。



姉汁～白川三姉妹におまかせ～

メーカー	アトリエかぐや
ジャンル	汁集め AVG
発売日	2005 年 11 月 25 日

訳あって祖父と暮らしていた主人公（白川悠）は十数年ぶりに母の再婚相手（白川義父）の邸宅に同居するようになった。

昔を懐かしみながら邸宅に行くと、そこには、なんと見違えるほどに成長した義理の姉たち（三姉妹）がいた!!

義父は考古学の仕事で長期不在。悠は義父の書斎を寝室として使わせてもらうことになるが、そこで怪しいピンを発見!!

それはなんとのろいのピンだった!!!

しかもその呪い、期間中に解けないと最大の災いが降りかかるという厄介なモノ! 呪いを解く方法は…

「女性のえっちな液でそのピンを満たせ」…!!!?

かくして一つ屋根の下、えっちなドキドキの毎日が始まった!

■涼子 returns!

あれは 2004 年の秋。我々弟一族は、たった一人の看護婦によって次々に病院送りにされ、例外なく長期の入院を強いられる恐怖の事件があった。その看護婦とは「白川涼子」。彼女の名前を聞くだけで、腰は砕け、顔の筋肉は弛緩し、脳内にドーパミン洪水が生じる奇病が流行。弟族は絶滅の危機に瀕した。

そんな弟人類の危機を何とか乗り越えたかにみえた 2005 年 9 月、恐ろしい情報が姉業界を駆け抜けた。

「涼子姉が帰ってくる」「涼子姉の姉と妹も引き連れて」「キーワードは“姉汁”」

今度こそ本当に精も根も尽き果てて死んでしまう、弟の誰もがそう確信したが、その顔は一樣ににやけていた 2005 年の冬。

■アトリエかぐやの本気汁

姉ゲーのブランドとしてすっかり定着したアトリエかぐやですが、もはや行き着くところまで行ってしまったとしか言いようがない姉ゲーに仕上がっています。ただ単に「姉」が出てるから姉ゲーだなんて言える時代はとくに過ぎ去った今、ギャルゲーにおける理想のお姉ちゃんを見事に表現しており、大満足の 1 本です。

まず、ヒロインの白川三姉妹全員が、性格はそれぞれ違っても、弟大好き! な点は共通していて、しかもその描写が充実。姉ゲーマニアも長く続けていると、「このお姉ちゃん、弟のことが好きだなんて言っているけど、言わされてるだけだよな…」などと悟ってしまうことが往々にしてある訳ですが、『姉汁』に関してはそのようなことは無く、「このお姉ちゃん、心の底から弟を愛してくれているな」と感じ取れます。

シナリオ・キャラクター設定が姉仕様で問題が無いのはもちろん、それを支える CG やボイスも姉姉していて素敵。原画はおなじみ choco chip さん。イベント CG の 1 枚 1 枚が、どれを取ってもセクシー。今作では、特に表情が良いのです。姉属性も極まってきた私には、胸や局部の描写よりも、弟を見下ろす姉の顔だけでイけるシーン多数でした。これからという弟は、ぜひ姉の慈愛に満ちた眼に注目してプレイして下さい。ボイスも不満な点は無し。お姉ちゃんらしさ全開です。

そして、忘れてはならないのは、圧倒的

なボリューム。『ナースにおまかせ』の時より回数も濃さも増量されています。Hシーン数は軽く50を超え、毎日2シーン程度拝んだとしても約1か月の計算。しかも、そこらの並のゲームよりもずっと濃い姉弟Hが楽しめて、ですよ？さらに、お姉ちゃん3人のシナリオの他に、隠しキャラルートまでもが用意されています。バッドエンドですらHシーン入りとサービス満載。定価は8,800円クラスのゲームですが、内容に照らせば非常にコストパフォーマンスの高い1本であることに間違いありません。

ところでこの『姉汁』、ストーリーの発端と目的は、「女性のえっちな液で呪いの瓶を満たす」というもので、この設定に引きずられて姉ゲー要素が薄まってしまうのではないかと少々気にしていたのですが、むしろ面白い方向に作用していました。『ナース』にはあまり無かった、「たまにはこっそりお姉ちゃんにエッチな悪戯をしてみたい」弟願望を満たしてくれることでしょ。

以上のように、姉ゲーとしてはほぼ完璧に近い仕上がりなのですが、気になった点が一つ。今回の姉汁、『ナース』のときよりストーリー性が弱まっているように感じました。姉汁でも各ヒロインごとに2パターンのエンドが用意されていますが、1パターンにして、その分読ませてくれるシナリオでも良かったかな、と。ここまで満足させられておいてワガママな弟の一言ですけれども。

■キャラクター

・白川恭子（長女）

現役ナースで、三姉妹中最強の豊満な肉体を持ち、弟・妹に対するセクハラを生き

甲斐にしている、とことん陽気なお姉さん。初出は2002年発売の『恥辱診察室』ですが、小弟は未プレイのため、今回は初対面。性格はSだと事前に聞いていたので、ビクビクするやらワクワクするやら。

「あれは今日みたいに退屈な夏の日の午後。アタシ、縁側で可愛い弟のオチンチンの皮を剥いてあげたのよね〜」

と、お茶目ないじられ方をしながらも、意外に優しいじゃん…とホッとしていたら油断できませんでした。うわぁ…

そんなちょっぴりSな性格だけあって、似合う下着の色は当然黒。Hシーンでも見下ろされる体位多数。誘惑系のお姉さんに弱い弟さんなら狂喜の連続のはずです。ノリの良さは次女の涼子さんと組むことで倍増します。

・白川涼子（次女）

姉汁は涼子お姉さん目当てに買ったと言ってもいい、それほどまで会いたかったお姉ちゃん。弟のことが可愛くて仕方なく、どうしてもなく大好きなお姉ちゃんです。

性格は天真爛漫でおおらか。下半身の悩み多き青少年の良き理解者で、でもって、世界一弟いじりの上手な姉。涼子お姉さんの「ほーれほれ〜♪」と「うりうりー♪」攻撃は宇宙一。これに耐えられる弟がいたら、むしろ彼は弟じゃありません。

セリフも全てが素晴らしく、ここでほんの一部を抜粋させてもらおうと…

「あのちっちゃくて可愛かった弟が、こーんなに大きくなっちゃって。ねえちゃん嬉しい♪」

「いやーん、嬉しい♪ 姉ちゃんのおっぱいは、常に新鮮な驚きに満ちてるのねっ？」

「ほらほら、そんな顔しないの。後でオッパイ見せてあげるからさ♪」

「う、うん……そうね。そうよ涼子……っ。可愛い弟のため、ねーちゃんが身体を張らなきゃ！」

¹ 『アネもネ』（創刊号参照）は設定に引っ張られすぎて失敗してしまった例。

これだけでも涼子お姉さんの魅力が伝わってきますよね？

エッチな方面には常にオープンで、弟が頼めばすぐに触らせてくれるような姉で、逆に積極的に触ってきたりするお姉ちゃん。体験版で有名になった「弟パンツ事件¹」の事も書くと、ただの痴女？と思われてしまうかも知れませんが、それは違います。弟を想う姉として、ごく当たり前の愛情表現なのです。世間の基準がおかしいだけです。こんなエロ可愛いお姉ちゃんを世に送り出してくれたスタッフに、心の底から感謝したい。

ボイスは『ナース』の時と同じ一色ヒカルさんです。涼子さんの役を演じられるのは、姉論理的にこの方しかあり得ない、完璧なハマリ役。音声スキップどころか、リピートを多用してしまい、プレイの進行が遅れた最大の原因です。

最後に、前作では姉属性が涙を流して喜び、感動したシナリオが涼子姉さんには用意されていましたが、姉汁にも感動のエンディングが一つ用意されています。ネタバレに繋がるので、ここでは明かせませんが、ここまでやってくれたら、もう思い残すことはありません。『姉汁』中、最高のイベントCGです。これを見る前に枯れ死したりしないように！

・白川杏子（三女）

『姉汁』で初登場した、新作お姉ちゃんです。

見た目は、二人ほど大人の体型・体格ではなく、どちらかというと可愛い女の子、といった感じ。しかし、見た目の幼さは姉要素と比例しないことはご存じの通り。逆にお姉さんらしさが出たときに、そのギ

ャップがプラス要素になります。

性格はツンデレ系…と分類すれば楽なのですが、それほどツンツンとしているのではなく、照れ屋なために弟のことが大好きでも上手く伝えられないもどかしさ、といった面が強いお姉ちゃん。奔放に弟ラブ光線を振りまく姉二人の反動でそうなってしまったかのようです。そんな姉なので、一線を越えたときも「アタシが甘えさせてあげる」という姉ではなく、逆に弟に甘えてくるお姉ちゃんになっています。涼子姉さん達と上手くバランスが取れている所です。

日常では、下着姿でうろつく恭子姉をはしたないととがめたり、姉二人の弟いじりが暴走したときにブレーキをかけるツッコミ役なのに、末っ子の悲しい役回りかな、Hな場面に突入すると、弟と一緒に恭子・涼子姉タッグの良いオモチャにされています。主人公とどこか立場が似ている杏子姉ちゃんですが、二人きりになるともちろん立場は杏子姉ちゃんが上。頭はあがりません。

ボイスはまきいづみさん。この人選もまたハマリ役で、杏子姉ちゃんから来るイメージにぴったりです。

ちなみに姉二人のコスチュームがナース服なら、杏子姉ちゃんは体操服とブルマ。その点でプラスになる弟も多いでしょう。

■絶対押さえておきたい！本

かつて『ナース』を経験してしまった弟なら、誰に言われなくても、まず間違いなく買っているであろう本作。もし『ナース』もまだ、という弟ならば、この際セットで押さえておくべき姉ゲーです。

最後に重大な警告。

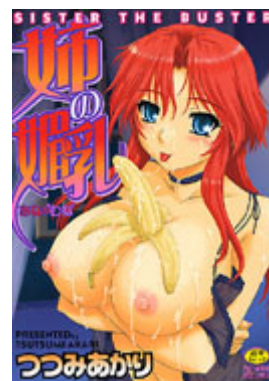
姉汁集めは1日1時間。あなたの健康をそこなう可能性がありますので、姉汁の吸いすぎに注意しましょう。マジデ。

¹ 弟のパンツを手にして一人豪快に盛り上がってしまう涼子姉に世界中が衝撃を受けた。

【姉コミック】

姉の媚乳 (あねの“むね”)

著者	つつみあかり
出版社	一水社 いずみコミックス



■つつみあかり大先生の新刊！

ネット上のマンガ専門店「まんが王倶楽部」では「お姉ちゃんが大好きだーと叫べる人の生き神」と謳われ、とらのあなのPOPでは「姉マンガ描きのトップオブトップ」と紹介される姉漫画家といえど？

そう、我らお姉さん大好きっ弟(こ)のために夢と希望を描き続ける姉漫画家・つつみあかり先生のこと。姉萌えの成年コミックを描かせたら世界一と信じて疑わないつつみ先生の新刊が2005年10月に発売されました。

つつみ先生の超名著『姉の淫腔(あねのあな)』から約1年。全姉連では、事あるごとにその素晴らしさを説いてきましたが、「姉」シリーズの正統後継作となる1冊がこの『姉の媚乳』です。

■当然のように名作姉コミック

やはり真の姉属性の人が描く姉コミックは質が違う。成年コミック界では、救いようのない酷い似非姉コミックが多く、幾度となく流した涙もこの一冊で報われます。

新刊の中身は全部で9編。もちろん全て姉弟ラブラブ仕立てです。

「Nearest Dearest」姉弟ゲンカはするが、内心では姉への妄想が止まらない弟と、からかい系の姉が弟への本当の気持ちを伝えた時、お風呂場で…。本書では唯一の「姉貴」呼びをする弟クンです。「姉貴」呼びに憧れを持つ弟なら幸せ度倍増。

「PRIME SMILE」姉弟が結ばれてからまだ3日目の初々しい二人が学校で。お姉ちゃんの表情がステキな1本。

「LOVE COUNCIL」「曇りのち姉」「となりで眠らせて」真面目で優等生の生徒会長お姉ちゃんとその弟。お姉ちゃんのヤキモチ焼きっぷりと、弟の甘えっぷりが見所。お姉ちゃん！と連呼しすぎて羨ましすぎ。

「おねがいお姉さん」素直に告白できない姉と弟が、初めてお互いの気持ちを知ったとき…。しっとりと読ませる王道型で、本書の中でも特にお気に入りの1本。

「SISTER WARS」趣向を変えた、ややSF風味の姉弟モノ。

「禁唇」彼氏が来るからと家を追い出された弟が、こっそり帰って見たものは？お姉ちゃんのあんな姿もお好みの弟なら必読。

「大っきくなあれ」「もっと大っきくなあれ」前作の『姉の淫腔』では登場が少なかった、「アネもネ」のつるべた姉・五百菜姉さんが大増量で再登場。姉さんのバストアップに協力するお話。

■姉の気持ちを受け取って

本作は以前より「お姉ちゃんの気持ち」を大事に、そして上手に表現したストーリーが多いので、ぜひその点に注目を。

なお、全編に渡ってエッチ度もかなりのものです。それでいて、しっかり姉萌えを表現している点はさすがです。



ONE☆BOKU Faraway so close!

～お姉ちゃんとボク～

メーカー	LUCHA!
ジャンル	お姉ちゃんにまったり癒されADV
発売日	2005年8月26日

物語の舞台となる小峯村の住人は、9割方小峯という姓の持ち主。おそらく歴史を紐解けば、おそらく全員が親類縁者である可能性が強い。そういうこともあり、住人たちの結束は強く、隣近所であれば身内同然の付き合いをしている。主人公、小峯健児朗の父は、この村の出身。三人兄弟の次男である健児朗の父がこの村を出たのは、大学に進学する際だった。すでに彼の父母（健児朗、夏子、秋菜の祖父母）はなかった。

しかし、長期の休みのたび、健児朗は親戚の小峯本家に遊びに来ていた。ただ、父の仕事は年毎に忙しくなり、次第に村から足が遠のいていく。そして、最後に村にやってきてから、10年の歳月が流れた年の夏——海外に赴任している父母の頼みもあり、墓参りと、そして村への挨拶に健児朗はやってきたのだった。

■新生 LUCHA! の姉ゲー

「るチャ！」ブランドといえば、今までノリの良いバカゲー3部作を生み出したブランド。既にその時からスタッフさん達の年上志向・姉嗜好が反映されて姉要素が盛り込まれてきたのですが、今回、「LUCHA!」とブランド名を改めて、脱バカゲーの方向転換第1作が「ONE☆BOKU」です。

この作品、企画者が率直に認めるように、

(るチャ！時代は)バカゲーがメインコンセプトでしたし、二兎追う者は……という言葉もあり、ぐっと飲み込んで来た部分なのですが……。
やはり姉ありきなゲームを作りたいという欲求を抑えられませんでした。

姉属性のスタッフが、好きで作った姉ゲーになっています。

さらには、企画者のココノツ氏が公式サイトスタッフ日記で、「姉、ちゃんとしようよっ！」がなければこのゲームは生まれなかったという趣旨の告白¹までされています。偉大な姉ゲーの先達に対する敬意と感謝が込められた言葉に、姉ゲーマニアとして感動さえ覚えました。

「ONE☆BOKU は弟の夢がいっぱい詰まった姉萌えゲーです」のコピーに心躍らせプレイしました。

■弟の夢、詰まってました

舞台はのどかなのどかな山あいの田舎。幼い頃には毎年行っていた父親の故郷に、10年ぶりに訪れる所から話はスタート。従姉のお姉ちゃん、幼なじみのお姉ちゃんに再会し、翌日遅れて到着した義理の姉に囲まれた一夏が描かれています。

お姉ちゃんが好きで、お姉ちゃんがたくさん登場するゲームを作ろうとしたスタッフの意気込みがビンビン伝わってくるほど、最初から怒濤の姉萌え展開。発売前から姉ゲーだと宣言されていたとはいえ、こんなにハイペースで姉要素を奮発していいの？と思わせるほど姉萌えシーンが満載です。もしスタッフが真に姉属性ではなかったら、途中で息切れするか、無理が見え隠れして、こうは行きません。

姉萌えシーンの方向性としては、極度に

¹ LUCHA!公式サイト内「選手控え室」2005年7月30日付。

ダダ甘な甘やかしや、恐怖姉政治の圧制などではなく、姉ゲー業界基準における標準的・常識的範疇に収まっています。るチャ時代のバカゲーの残り香は一切無し。お姉ちゃん本来の自然の味を大事にしているといった所でしょうか、田舎の素朴さとよくかみ合っているといえます。進行上も何か明白な目標が立てられているわけではないので、のんびりと時間の流れる田舎での姉ライフが堪能できるでしょう。逆に言えば、刺激の強さでナンボの姉ジャンキーだと薄味に感じてしまうかも。

そんなスタイルのゲームなので、「HCG率〇〇%！」のように扇情的なH要素は控えめ。アブノーマルだったり、ただれた描写はありません。姉弟仲が深まる段階を着実に追って展開していくのは好印象。お姉ちゃんと相互の想いを深めて行く様子の表現に貢献しています。

キャラクターデザインもクセがなく、外見と中身がよく一致しています。グラフィック回りも合格点でしょう。

■そんなに落ち込まなくても…

4 人のお姉ちゃん+αに囲まれて、田舎でのんびりとした姉生活満喫の一夏。

…のはずなんですが、この幸せ者の弟くん、スイッチが入るとダウンナー系になってしまい、どうにも思考が悪い方に進んでしまいます。行動や言動もマイナスに変わり、意中のお姉ちゃんと気持ちがすれ違ってしまい、深く思い悩む…という展開が全ルート完備¹。もちろん最後はお姉ちゃんと結ばれてハッピーエンドにはなりますし、「一旦落としてまた上げる」パターンは王道ではあるのですが、それでもくどい感じは否め

¹ ハーレムルートさえ主人公が思い悩むシーンがある。番外編的なハーレムルートぐらい、羽目を外して大いに楽しんだらいいのに。

ません。しかも彼は、悩みを一人で内面に抱えて苦悶するタチなので、プレイヤーとしてはお姉ちゃんではなく、主人公自身の気持ちにばかり付き合わされる結果になってしまいます。

一般的なヒロインと違って、身近な家族ヒロインである姉は、本来なら腹を割って話せる相手なんですから、うじうじせずカラッと姉弟ゲンカするくらいが良くありません？

ちなみに、本作のシナリオ担当は神無月如月さんで、かつて『おね～さん Day☆By☆Day』²のシナリオ担当の方でした。あの時も主人公が思い悩むタイプだったっけ…。お姉さんを描くのは上手な方なので、次回は我ら弟も惚れるような魅力的な弟クンを描いて欲しいですね。

■キャラクター

・小峯夏子（従姉の小峯姉妹の姉）

活発で行動的、頭で考えるよりまず行動。竹を割ったような性格で、売り言葉に買い言葉が得意。ちょっとがさつな面もあるけど、実はとても他人に対して気配りができる、そんなお姉さんです。

普段は村の中でバイクを使った配達屋をしています。可愛い弟分が10年ぶりにやってきて大はしゃぎの夏子姉は、体育会系のノリで主人公にバイクの特訓を施します。

姐御肌が強くて、細かいことにこだわらない夏子姉。主人公が先に入っていようが、お風呂に平然と乱入してきます。姉と弟も同然だし、今更裸を見られたって…という夏子姉。そうは言っても思春期の主人公とその息子。それを目ざとく見つけても照れるようなことはないのがこのお姉さん・夏

² 全姉連会報第2号で取り上げました。メーカーはアズライト。現在は消滅。

子姉の特徴を上手に表しています。

「黙ってアタシに付いてきな！」的姉要素がお好みの弟なら絶対にお勧め。CVが一色ヒカルさんなのも拔かりありません。

・小峯秋菜（従姉の小峯姉妹の姉）

快活な夏子姉と対照的に、物静かでふんわり優しい雰囲気秋菜姉ちゃん。

体が弱いので、家で家事をしていることが多く、母親的要素も含まれています。家事は得意でも、料理の腕が殺人的に悪いため、みんなのために食事を作ると言い出すと、一気に場が凍り付きますが。

「じゃないとお姉ちゃん、めーっするわよ」と優しく叱られたり、「したくなったら、がまんしないでいいからね。ちゃんとおねだりして……ね？」と蕩ける甘やかしもあったりと、甘い香りが立ちこめる、ちょっと天然な所もあるお姉ちゃんでした。

・小峯美鶴（義理の姉）

父親の再婚によってつい最近姉弟になったばかりの、お姉さん 1 年生。幼い頃から連れ添ってきた姉ではないのに、なんだろう、この美鶴姉さんの姉らしさは。実は美鶴姉さん、子供の頃からの弟が欲しいという願いが思いがけず実現してしまった今、姉らしく振る舞うよう努力中で、上手く行ったときには一人こっそり舞い上がるような素敵お姉さんなのです。

「姉たる者、清く正しく、美しく。ついでに理知的であわてず騒がず冷静で…」

「よしっ、今日も姉をがんばるぞ！」

「見られちゃった見られちゃった！お、弟に裸見られちゃったっ！！」（←喜んでいる）

クールで知的かつ有能な女性…とのギャップが見事。弟のことが気になって可愛くてたまらない様子が、みているこちらを照れさせるほどです。無理に姉らしく振る舞

おうとするキャラは失敗することが多い中、美鶴姉さんは成功しています。

美鶴姉さんは理性的な女性なので、感情的な夏子姉としょっちゅう火花を散らしているんですが、実は「ケンカするほど仲が良い」を地でいくような二人。この二人の組み合わせに限りませんが、姉同士の関係もしっかり描かれているのは、姉しよ譲りと言ったところでしょうか。

ちなみに、美鶴姉さんは公式サイトの人気姉投票での優勝者。納得です。

・小峯千里（幼なじみ）

幼なじみで同年代のお姉ちゃん。姓が同じなのは同姓ばかりの田舎だから。まだ女子校生ですが、精神的にはすっかり大人で、看護師を目指して診療所を手伝う、頑張り屋と表現するに相応しいお姉ちゃんです。全編に渡って、弟を励ましてくれます。

裏表のない、前向きでしっかり者のお姉ちゃんの鑑ですが、頑張らなきゃと張り切りすぎて疲れてしまっていないか心配するのも弟の務め。しっかり支えてあげて下さい。

■姉要素十分で満足でした

先行する姉ゲーに感化されて、自らの姉好きの一心で製作された『ONE☆BOKU』。物語全体を通して、姉と弟がテーマになっていることは間違いありません。姉ゲーをこよなく愛する我々に向けて製作されたこの一本。不満な点もありましたが、それを補う姉要素の連続によって、合格点は確保できています。『ONE☆BOKU』をステップにして、さらに良い姉ゲーに期待したい所です。

そうそう、初回ロット同梱の「お姉ちゃんからのお手紙 CD」は嬉しい特典なので頑張ってお店で見つけて下さい。

【姉ノベル】

姉☆コレクション

著者	本田透と恐るべきお兄ちゃん軍団
出版社	二見ブルーベリー文庫



■姉萌えたっぴい詰め込み本

『「姉ゲーム」大全』のような姉萌え特化本は、妹本に比べまだまだの感があるのは否めないところ、「妹☆コレクション」を出しておきながら「姉」をないがしろにするのはバチが当たると考えたのかどうかは分かりませんが、遂に登場しました。

事前に得られた範囲での情報では、姉ノベル数編、姉理論考察、姉萌え対談などが含まれると聞いており、期待は高まっていました。

■第一印象

読み始める前の印象を正直に告白すれば、「妹☆コレクション」等、妹関係の著作で有名な著者の方達が姉萌えをきちんと捉えられているのだろうか（この危惧を抱いていた諸弟は多いはず）、表紙は可愛いけど、姉に特化しきれていないのではないかな…。そんな不安が渦巻いていました。

期待度がやや低空飛行で始まったおかげか、読み進めていく間はページをめくる手が止まるようなことはなく、約 330 ページをするするっと読んでしまいました。

全体の約 2/3 が小説（全 4 編）、その他の内容として…

「本田透の姉総研」オタクは姉に進化する
「僕の理想の姉論」姉属性とは弟に使える愛の供給者

「姉レビュー」姉ゲームに姉映画、お姉たん何でも探検隊

「妄想オタク芸人ユニット アニメ会の萌え話」

「姉ゲー制作者 ガチンコ☆インタビュー」が収録されています。（裏表紙より）

第一印象は、姉萌えを含んだ一冊で、まずまずの満足が得られるかな、というものでした。

姉萌え小説は、成年コミックが「姉さえ出せば姉モノだ」と勘違いしてばかりなのとは異なり、ちゃんと姉らしさを考えて書かれたものが多く、安易に書き下ろしたという印象はほとんどありませんでした。

その反面、期待していた姉考察面の内容が今一步で、的外れになっていたり、表面をなぞるだけだったり。膝が割れるくらい膝を叩きたかったのに、うなずくことさえ厳しかったのは残念でした。

■各論

まずは姉ノベルから。

「ナーシング」

風邪をひいてしまった弟を過剰な甘やかして看病するお姉ちゃんのお話。口移しの食事はおろか、トイレまで付き添ってしーしーさせ、脇の下ではないところで検温したりと可愛がり放題。

ただただ明るく、後腐れないお気楽姉弟モノです。

「溺愛お姉ちゃんの憂鬱」

主役はすでに関係をもっている姉弟。朝、お姉ちゃんが弟を起こしに行ったら、先にジュニアの方を起こしにかかってモガモガ…と溺愛ぶりを見せつけるシーンから始まります。お姉ちゃんの愛情を受けすぎるあまり、ねーちゃん離れを決意する弟。距離が広がる2人。その事が却って2人に本当の気持ちを気づかせる…。巧みに姉弟脱却型シナリオのタブーをかわしています。

「シスターマニアックスII～憧れのお姉さんの場合」

5年ぶりに近所に帰ってくる従姉の新居に出かける主人公と妹。実はだらしのない星人のお姉さんに呆れつつ、泊まっていくことになった主人公は…。姉ノベルというはっきりしたテーマが与えられて、ひたすら姉ばかり描いても誰も否定しないのに、妹の描写に手間かけすぎです。

「Thursday's Child EPIV」

4本のなかで最長編。不幸な家庭で育ち、養子に出された兄妹と、血の繋がらない弟と暮らす家に、生き別れの姉が作家として成功して帰ってくるところからスタート。兄妹はすでに一線を越えた関係に陥っており、その事実を知った姉。主人公が引きこもりとなった事件の引き金に、実は姉が関わっていた。しかしその姉も、別れていた10年間は壮絶な生活を強いられていた…と重い話。兄弟姉妹のすれ違い、葛藤、思いやり。姉萌えドキドキ小説！の言葉に浮かれているとカウンターを食らう1本。ただ、ここでも敢えて妹を登場させる必要性があったのかと。著者が妹本で名をはせる方で、姉派からは「姉でいっちょ稼ごうと乗りかかっただけでは？」と疑いの目をもたれやすいだけに、姉オンリーでもここまで書ける、という所を見せて欲しかった。

ここからは読み物やレビュー。

「本田透の「姉総研」

最も期待していたのになぁ…。本田透氏といえば、オタク業界では名の知れたプロのライターさんで、売れている著書も多く、その実力においては否定する気など毛頭無く、尊敬する一人です。

しかし、本稿は「姉☆コレクション」における「姉総研」を名乗るには不合格と言わざるを得ない内容でした。一素人が勇気を振り絞って言いますが、自分でも頑張ればこれ以上の原稿を書けるかも知れません。

氏はまずデジタル恋愛（二次元での恋愛）をアナログ恋愛と対比して、デジタル恋愛には段階があると、過去の代表的作品と絡めて主張します。理由付けが薄弱だったり、結果から帰納して結論づける傾向が強かったり一例えば、ToHeart2のタマ姉に人気が出ているから、今は「お姉ちゃんです！」と言ってみたりと、やや強引に持って行かれてしまいます。姉萌え（家族萌え）は、イケメン恋愛・人外恋愛に続く第三段階ですが、初めから第三段階にいるのも今や普通だし、私に限れば第二段階の経験ないし…との思いは棚に上げて、妹萌えと姉萌えを同次元で扱うのは、この本においてどうなの？との思いは捨てきれません。

続いて、姉の魅力はおっぱいだと唐突に主張され、姉＝巨乳がデジタル恋愛界における基本法則その1だと説明されます。いや、まぁ、それは分かっていたけど、ことさら主張するなら、どうして姉は巨乳で描かれるのか、著者の性的嗜好を越えた理由が読みたいのですよ。胸は母性の象徴だとか、年長者としての威厳を表す記号だとか、胸の谷間は深いほど弟を暖かく包み込むことができるから、そのように神様がお作りになったとか、そんな理由だってなるほどと思えるのですから。そもそも、巨乳か否かなどは、真の姉属性にとってはかなり優

先順位が下のはずですがね。基本法則その2「姉＝攻め」に関しては的確な指摘がされています。

煮え切らない思いのまま後半では、「俺萌え＝姉萌え」即ち、俺が女装して姉になることが究極だと宣言され…って、ちょっと待って！「おとボク」が人気を博しているのは事実で、これから伸びるジャンルであろうけど、姉萌えの本流についての考察が詰められていないまま、そっちに行っちゃうんですか？「おとボク」がお薦めなら、それは『女装☆コレクション』で扱えばいいのではないですか？ここまで来て「俺がお姉さまになって妹キャラと恋愛する」と熱弁されても困ってしまうので。姉に萌えるから姉になりたい願望は正論でも、土台となる姉萌えをしっかり築いて欲しかった。

まずいな。プロのライターに真っ向からケチ付けちゃいました。私の情熱から出てしまったものと理解していただけることを祈ります。

「シスター分析」

コミックに描かれる姉を織り交ぜながら、姉性分析を図っています。姉キャラと母キャラ、姉弟相姦と母子相姦、姉弟と兄妹などを対比して、姉の魅力を浮かび上がらせており、一般論として通用する結論に至っています。例に挙げられた作品も有名所で、理解を助けてくれています。

姉がよく面倒を見てくれる世話焼きで弟かわいがりだと弟は王様となれる、との一節は納得。弟はただの子分じゃないぞ、と。でも子分扱いも好き。

「素敵なお姉ちゃんキャラの条件」

こちらの姉論は、その題名の通り、お姉ちゃんキャラが持つべき条件を挙げながら、一通りの姉属性の本質を整理してくれています。

特別目新しい視点や、奇抜な主張があるわけではありませんが、きちんと基本が押さえられているので、姉キャラに関する創作を志す人にはもちろん、ただ漠然と姉萌えを自覚するに過ぎない初級者には基礎教養としてちょうど良いでしょう。

「姉×眼鏡＝∞」

メガネ属性の筆者が、メガネっ娘の良さに溺れているだけじゃないの？と思ったらそれは間違いで、姉とメガネが組み合わせられることにより、新たな定義が生まれることを実例とともに紹介。メガネにかける熱い思いが姉萌えと相まって伝わってきます。

「アニメ会の萌え話」

オタク芸人ユニット・アニメ会の対談は、ほとんどマリミテの話だけ。「姉」について語ることは知っているようですが、「マリミテで萌えて」との指示を受けたらしく、アニメ会の二人に責任無し。ここは姉を意識せず、マリミテ論として読むのが正解。アニメ会の姉萌え論は『「姉ゲーム」大全』で。

「姉レビュー」

基本的な作品が多いが、あまりマイナーなものも困りものなので、これはこれで適当か。20年前のアメリカ映画を取り上げているのが異色。11ページを割いて紹介するだけあり、その内容に興味津々。DVDが出ており、ぜひ見てみたくなる映画でした。

■一応押さえておいていいかも

どのページをめくっても姉、とまでは行きませんでした。我ら姉属性に向けて書かれた本であることは確か。本体762円のうち、500円位は楽しめるでしょう。

但し、まだ読んでいなければ『「姉ゲーム」大全』の方を先にお薦めします。



家庭教師のおねえさん

～Hの偏差値上げちゃいます～

メーカー	アトリエかぐや
ジャンル	密着エロチカ授業 AVG
発売日	2005 年 4 月 28 日

父のいい加減な思いつきで、一つ屋根の下家庭教師のおねえさん4人と一緒に暮らすことになった主人公（佐倉透也）。

なんと翌日から夏休みだというのに父は海外出張で不在に、主人公宅には透也とおねえさんの5人だけ！

ハーレム状態と化した我が家で、おねえさんだらけの夏期集中エロチカレッスンが始まった！

■今度はおねえさん先生モノ

お姉さん、ママ、人妻等々、ステキな年上キャラを描くことが得意なソフトハウスとして確固たる地位を築いたアトリエかぐや。

2004 年秋、姉萌え界に大きな衝撃を巻き起こした姉ゲー『ナースにおまかせ』を製作した Berkshire Yorkshire チーム。一体次はどんな夢を見させてくれるのか、また姉ゲーだったら良いな…と多くの弟たちが願っていた所に発表されたタイトルが

『家庭教師のおねえさん』でした。

これが平凡なメーカーなら、何のひねりもないタダの女教師モノと吐き捨てられそうな所を、アトリエかぐやの女教師モノというだけで一気に期待を膨らませてしまうのがアトリエかぐや信者の悲しいサガ。

■かぐやクオリティ健在だが…

まずグラフィックについて。choco chip さんの原画＋スタッフの緻密な塗りの CG は大安定。毎回これだけの質を事も無げに

維持しているのは素晴らしい。仮に自分が姉属性でなかったとしても、このクラスの CG が楽しめるのならきっと買ったはず。

そして同社作品では忘れてはいけないエロエロ度。不満な点などは挙げるのに苦労するほど完璧に近い仕上がりです。シーンのシチュエーションがバラエティに富み、4 人の先生の個性にそれぞれ合わせた内容。程度の差こそあれ、ほとんどが先生にリードされるベタ甘仕立て。この辺はしっかりツボが押さえられています。

では、肝心のストーリーはどうかというと、実は正直言ってあと一歩といったところ。本作は、冒頭のあらすじ紹介にあったとおり、突如現れた 4 人の家庭教師のお姉さんにあれこれエロチカレッスンされてしまう内容で、確かにその通りなのですが、それ以上ではなかったのが惜しい。個々のキャラ萌えはあるものの、ストーリーを通して見るとあっさり単純に終わってしまうのです。『ナースにおまかせ』の時に見せてくれた、姉属性の魂に訴えかけるあの気迫のようなものがあまり感じられませんでした。あくまで家庭教師モノですから、姉弟愛は薄くても致し方ないのですが、でもそれに近いものは欲しかったし、アトリエかぐやの彼らなら実現可能だったはず。しかし、恋愛感情の描写が先行してしまい（恋愛感情の芽生えもやや唐突）、お姉さんの要素の表現が少なかったのが残念でした。家庭教師のような「突如現れた、血縁・地縁もない年上」モノの難しさではあるのですが、何とかクリアして欲しかった所です。

■キャラクター

・小野寺理央（国語担当）

まじめで頑張り屋、だけどおっちょこちょいで、一旦思いこんだら抜け出せないタイプの国語の先生。クセはなく、その可愛らしさで正ヒロイン的な立場のおねえさん先生です。

男の子について理解のある先生になろうと頑張りながら、実はちょっと抜けていたりずれている所が理央先生の萌えポイント。

「そ、そうだよ。男の子だもん。こういうことって、よくあるよねえ？」

「せ、せんせえはお姉さんだもん。お姉さんはこんなことくらいじゃ、全然驚かないよお」

前後の状況は説明しなくても、これで十分性格や行動は把握できますよね？そして、それで大体合っています。

優しく素直なタイプのお姉さん好みなら、間違いなく理央先生です。

・汐野渚（数学担当）

サバサバした性格でノリの良い、からかい系のお姉さん先生です。

授業中も豊満ボディで無意識に悩殺してくる、困った先生。

趣味はプロレス観戦で…とまで言えば、もう後の展開は読めますよね。期待通りです。やはりプロレス好きの設定は姉・年上に限ります。

年上であるとの自覚度も高めで、面倒見の良い先生でもあります。

「ちゃあんと最後まで面倒みてあげるから、お姉さんに任せなさい」

「ほらほら、そんな顔しないの。後でオッパイ見せてあげるからさ♪」

こういう話の分かる先生が好き。

・雨宮天音（生物担当）

感情の起伏が一見乏しい、クールな先生。渚先生の下ネタ混じりのからかいに怒ってツッコミを入れるように、4人中もっともウブな所も見え隠れします。

初日の事件がきっかけで、主人公にきつく当たるようになり、とげとげしい感じのイベントが続きますが、それはもちろん後の「デレ」パートの伏線に過ぎません。そう、典型的なツンデレ先生です。

リミッターが外れてもちょっと素直じゃない所があって、「しょうがないなあ、どうしてもって言うんなら…」がよくお似合い。その後の可愛さは理央先生以上かも。

・秋月沙良（英語担当）

天然おっとりタイプの英語の先生。「あらあら、困ったわ…」な雰囲気をもいつも醸し出しています。

天然とは言っても奥手ではなく、むしろ逆。タチの悪いことに、先生達の中で最も男の下半身を知り尽くしている先生かも。

Hな要素と絡めた授業に熱心で、往年のルナ先生を思い起こさせます。ただ、沙良先生の場合は、むしろ調教では…と思える場面もちらほら。Sです、はっきり言って。

■期待の大きさが仇に？

『ナースにおまかせ』があまりに名作だっただけに、その続編で「おねえさん」とタイトルに付いてしまったことが、かえって仇になってしまったかも知れません。

CGの質などは文句なしに合格点ですし、Hシーンの濃さも並のゲームには負けないんですが、ワガママな弟の欲求に100%応えられるかということ、少しためらってしまいます。

ビジュアルファンブックや小説もあるので、そちらで楽しんでもみるのも良いかと。



姉☆孕みつくす〜姉&死神お姉さんと1週間

メーカー	LiLiTH
ジャンル	姉孕ませ ADV
発売日	2005 年 2 月 19 日

高見秋俊は都内の学校に通う学生。両親は早くに死別して姉、瞳との二人暮らし。瞳は学校でも有名な美人で成績も学内トップ、そんな姉との二人暮らしを周囲は羨むが、実際の姉との生活は甘いものではなかった。

ある日の夜、主人公が自分の部屋で悶々としていると、突然部屋にあるベランダから怪しげな装束をした、姉と同じぐらいの年頃のお姉さんが侵入してきます。しかも何やら凶悪そうな大きな鎌を抱えて……。驚く主人公に魅奈と名乗るそのお姉さんが、自分は死神であり主人公の寿命が尽きたため魂を刈りにきたと告げる。

騒ぎを聞きつけ部屋にやってきた瞳はその事実を知ると、主人公のために必死に魅奈に命乞いをしてくれます。

「美しい姉弟愛ですね！ わかりました！ 一つだけ助かる方法があります！！」

その方法とは！？魂を刈られるまでに父親になれば死が延長されるというのだ。

「でも、待てるのは1週間です。1週間で父親になってください！ちなみに、死神の間では受精卵は子供として認めています♪」

それを聞き、ごく自然に瞳に視線が行く主人公。果たして主人公は姉を孕ませ生き残ることができるのか…！？

■ジャンル：姉孕ませADV

今までの姉ゲーにも、選択肢によってお姉ちゃんが弟の子どもを宿してエンディングパターンはありましたが、本作はとにかくお姉ちゃんを孕ませるのが目的。「魂を刈り取りに来た死神から逃れるためには、1週間以内に子どもを作らなくてはならない」との設定のもと、身近にいる女の子で、そして憧れの瞳お姉ちゃんに子作りをせがむ…というもの。

ヒロインは姉と死神のお姉さんの2人。ストーリーの中心は、近親モノにおける最も背徳的な「孕ませ」ということで、姉ゲーとしての話題性は十分でした。

■低価格レーベルの実力は？

ヒロインが2人であることから察しが付くように、ダウンロード版 1800 円・パッケージ版 2000 円と低価格レーベルです。

ヒロイン数や全体のボリュームを減らして低価格を実現するのが主流ですが、その絞られたヒロインが姉だったりすると、クリアする気もない余計なキャラが居ない分、経済的にも時間的にもパフォーマンスが高くありがたいわけで、本作もその一つ。

しかし、えてして全体のクオリティも…になりがちなので、油断は禁物ですが。

それでも 2000 円ですから、同人ゲーム程に楽しめればいいのかと思って始めました。

開始直後、余計な前置き一切無しで姉弟2人の朝と、その登校シーン。わ、いきなりこの弟、お姉ちゃんを痴漢し始めましたよ？このゲームに与えられた時間が少ない事を考えれば、この唐突感も致し方ないか。

その夜にはもう死神の魅奈さんが登場し、子作り強制フェイズに移行。

だらだらした描写が無く、スピード感のある展開は良いのですが、ならば限られた姉との日常の場面に、ぎゅっと姉萌え要素を詰め込んで欲しかったなと思わせられます。後述するように、瞳お姉さんはやや高圧系。基本的に厳しい感じのお姉さんなの

で、合間にちょっと慌てたり素直になったりするところを入れれば、簡単に萌えお姉ちゃんのできあがり…のはずなのに。

その後一週間、死神お姉さんにもちょっかいを出したり、それが姉バレして怒らせちゃったりしながら、子作りに励みつつエンディングとなります。

姉萌え観点からの総評を付けると…中の上どまり。姉の方はそこそこ弟のことを想っているものの、弟の方は「お前単に姉を欲望のはけ口としか見てないんじゃないの？」という印象が強いのです。姉に対する不遜な態度もちらほら見受けられるし。Hシーンにおいては、お姉ちゃんにではなく、性に溺れちゃってるだけなんじゃない？と思わずにはいられない展開が多くて。

「弟の命を救うためとは言いながら、本当はラブラブ姉弟のH」なんて描き方を期待しすぎてしまった私がいけなかったんでしょうか？

ただ、ハッピーエンドと、続くアフターストーリーがそれまでの分を取り返してくれるので、最後まで辛抱（というほど長くはないが）してプレイしましょう。

■キャラクター

・高見瞳（義姉）

一つ年上の、成績優秀・運動神経良し・しっかり者でFカップ美少女の完璧姉。

弟に対する態度は、甘やかすよりもきっちり上から叱ってしつけるタイプ。ゲーム序盤も厳しい口をきかれます。それはそれで、今まで幾多の姉に叱られ続け、むしろ悦びに変換できる弟であれば何てことはないのですが、飴と鞭という言葉があるように、鞭の後の甘い飴を心待ちにしていると、ちょっと肩すかし。もし瞳お姉ちゃんをツンデレと評するなら、デレ部分が弱いです。ここが非常に惜しい。きっと心の中では…

と脳内補完するしかないのは寂しいのです。

「物心がついた頃から弟を異性として意識し始め、いけないと自覚しつつ今では抑えきれないほどの恋心と弟に対する独占欲をもっている。」

こんな弟泣かせな設定を与えられているのに、100%生かしきれてない印象。

でも、全然ダメ姉だと言っている訳ではないので誤解なきよう。強気なお姉ちゃん部分はあちこちで顔を覗かせてイイ感じですよ。そういう所は結構お気に入り。

「何よ、お姉さまに文句でもあるの？」
「お、弟のくせに生意気言わないの……っ」
「言うこと聞きなさいっ、お姉さんを困らせない……っ！」

・魅奈（死神お姉さん）

主人公の魂を刈りに来た落ちこぼれ死神お姉さん。天然な思考回路でお人好し故に、主人公の毒牙にかかってしまいます。

100年の修行を経た…割には、年上要素・姉要素はほとんどなし。姉キャラとして期待してはいけません。良いキャラクターに仕上がっていますけどね。

■あと1000円出あんで！

姉とサブキャラ1人以外にヒロインは居ない環境で、姉に専念して遊べる点で、時間あるいはお金のない弟にはお薦めできる1本。ちょっと姉萌えの小腹が空いたな、ぐらいの感覚の時ならちょうど良いかも。

ただ、Hシーンばかりで（普通は褒められるところですが）、姉弟の日常的な部分あまり描かれてなかったのが残念。もう千円出してもいいので、瞳姉の設定にあった「弟に彼女ができたことに激しく動揺した」シーンを見たかった！

危険なアネキ

放映日時	フジテレビ系 毎週月曜夜 9 時
放映開始	2005 年 10 月 17 日～

毎週月曜よる 9 時放送

危険なアネキ

■お姉ちゃん警報発令！

月 9 のドラマといえば、その方面に疎い自分でも知る、有数のドラマ枠。その枠に、まるで姉ゲーの設定を持ち込んだようなドラマが 2005 年 10 月にスタートしました。

「お姉ちゃん警報、発令」なんて姉ゲーのキャッチコピーまがいの番組宣伝に目を奪われた諸弟も多いのでは？

普段は姉ゲー、姉コミック、姉アニメを中心に追いかけている全姉連も、こればかりは注目して見続けてきました。

■テーマは「姉弟愛」？

美人で、顔だけが取り柄の姉・皆川寛子が、東京で医師をしている弟の勇太郎のアパートに突然押しかけ居候を始める所から話はスタート。このドラマ、テーマが「姉弟愛」とはっきり謳われていることもあって、お姉ちゃんが弟のことを大事に、自慢に思っていることが強調されていました。

第 1 話の予告編、「私のことはいいけど、弟を馬鹿にするのは絶対許さない！」とのセリフに心打たれて見始めた弟も多いでしょう。実際、本編でもお姉ちゃんの弟思いな面は随所に見られて、しかし必ずしも上手くは行かないのですが、ちゃんと落ち着くところに落ち着く話になっています。

一方の弟の方は、姉のいい加減な部分を反面教師にして医者になった経緯から、姉＝どうしようもない人と厄介者扱い。人間的に未熟な部分が大いなのですが、姉が不器用ながらもひたむきに人のために動く姿を見て、成長していく様を描いています。

最初はそれなりに良かったのですが、テーマの「姉弟愛」が徐々に薄まっていった

のは残念。というのも、姉が社交的なため、外界の人間との騒動が多く、姉と弟が正面に向き合う場面が思ったよりも少ないのです。姉の愛情が弟に面と向かってくれるような内向的な話を期待していたのに。

近親モノである姉属性の道を志した以上、弟の視野は必然的に狭く、こもりがちになるわけですが、そんな人間からすれば「こっちを向いてよお姉ちゃん」と、弟としては思わざるを得ないのは当然で、寂しくもあります。姉の関心が外界向きでも、行動原理は弟思いから来ることは分かるだけに。

また、お姉ちゃんは弟に優しいあまり、押しが弱いのももったいない点。弟が何度も「もう出て行ってくれよ！」とうとうしがめるのに対し、「別に居たっていいじゃない」と甘えるのもいいけれど、姉の威厳をもっと全面に出して、ビシッと指さし「泊めなさい」ぐらい言わせても良かったのでは？ 弟がしっかり者のエリートなだけに、姉にだけは頭が上がらない、なんて設定でも良かったように思いました。

■たまにはドラマの「姉」も

と、あれこれ言いながら、毎週欠かさず見てしまいました。弟に馬乗りになって甘える姉とか、弟が姉の気持ちに格好良く応えたりする場面も現れて、油断できないので。普段は姉萌えは二次元限定とのポリシーを持つ弟でも、DVD が出たら何話か見ても良いでしょう。毎回ほぼ 1 話完結ですし。

それにしても、この位でゴールデンタイムの番組が成り立つなら、ギャルゲーのシナリオや演出は頑張っているなど感じます。ドラマが姉ゲーに追いつくのはいつの日か。

2005 年上半期 姉ノベル批評

佐々宮ちるだ

『姉、ちゃんとしようよっ！2』

番外編 3 ～空也の恋のぼり

ソフトガレージ／ISBN4861330467

姉しよ2が出てから、もう1年以上が経ちましたが、いまだ衰えない姉しよ人気を支えているのは、この番外編ノベルシリーズが刊行され続けている事に負うところが大きいでしょう。

番外編1はクリスマス、2はバレンタインと季節に合わせて発行されてきた姉しよノベルも、3巻目が発売されました。

いるかちゃんと要芽お姉様が空也を賭けて対決、「俺と姉様といるかちゃん」。呪いの兜をかぶってしまった空也を助ける雛乃姉さんと巴姉の活躍、「俺と姉さんと呪いの兜」。夢の世界で、ねえやとねーたんが囚われのクーヤ姫を探しに行く破天荒冒険ファンタジー「ねえやとねーたん不思議な冒険」。今は亡き柊家の母・凜が少し早いお盆の里帰りをする「俺とみんなとやさしい風」。

今度もすべてそのままゲームのイベントになりそうな素敵なお話揃いでした。同シリーズについては、第1巻から忠実に原作のノリを受け継ぎながら、姉しよらしい笑いが描かれていて、それは第3巻においても、もちろん健在です。そろそろ息切れしかねないのでは、なんて心配は失礼の極みであって、安定したおもしろさが維持されています。

日常のイベント的ストーリーから、夢の中のような話だからどんな設定も許される自由なストーリーまで、バラエティに富んだ話が用意されるなか、締め「俺とみんなとやさしい風」は、姉弟愛・家族愛が心地よく描かれる姉しよによく合ったお話。お姉ちゃんオールスターで優しい気分にな

れる柊家のお盆の1日を共有してみてください。

2005年8月には、同じく佐々宮さんの脚本による姉しよドラマCDがソフトガレージから発売されます。オリジナルノベルだけでなく、やはりボイスが付くのは嬉しいもので、発売が待ち遠しいです。

橘真児 『お姉ちゃんとあそぼ』

フランス書院美少女文庫／ISBN4829657367

主人公・優乃は、まだ幼い風貌で、あどけない顔立ちの中学1年生。彼と、その姉の彩姫は同じ中学校の創劇部に所属する。秋の学園祭で発表する演劇は、姉の脚本による兄妹モノで、優乃が妹役に決まったことで、女装を強いられることになったことが引き金となって…という感じの展開。

学校では従姉の響子先生に、役になりきるためと理由を付けて女装させられ、プールにも連れて行かれたり。幼なじみでボーイッシュな智沙に甘く誘惑されたりと、一筋縄では行きませんが、しっかりとお姉ちゃんと結ばれますので、安心できます。

弟が隣の部屋の姉を想って一人慰めるのは当然ですが、お姉ちゃんも負けずに弟ラブ！で、しかしそれがいけないことと自覚しているので、表に出せず悶々とする。そんな葛藤がよく出ています。

「お姉ちゃんとあそぼ」のタイトルの割には、お姉ちゃん以外の2人の比重が大きいので、少し割り引いて考えておくのが吉。女装させられたまま致すシーン多数で、お姉ちゃんの下着を着せられたまま手でされるようなシチュエーションもあり、女装ショタっ子好きなら大吉。姉や従姉のお姉さんに女装させられてトラウマになっている弟なら大凶です。



パルフェ ～chocolat second brew

メーカー	戯画
ジャンル	メイド喫茶 ADV
発売日	2005 年 3 月 25 日

— 来店されるお客様には、現実の世界から離れて、ひとときの安らぎを…

中世ヨーロッパの街並みを再現した大型ショッピングモール・「ブリックモール」。

なぜかそこで真向かいに鉢合わせた、同じコンセプトの欧風アンティーク喫茶。

「キュリオ3号店」と、「ファミーユ」・・・。

圧倒的な人気を誇るキュリオを真向かいに、奮闘を余儀なくされる主人公。

その前に店の制服を着込んだバイト志望の少女、由飛が突然現れる。

彼女の笑顔と心惹きつけられる歌声に主人公は、なんとなく、なんとなくかなりそうな気がしてしまう・・・。

あれから2年。

名作を彩ったスタッフが再結集して、あらたな物語をつむぎだします。

『パルフェ ～ショコラ second brew～』

■今年の大本命

『パルフェ～ショコラ second brew～』（以下パルフェ）が発売されたのは、2005年の3月下旬。まだ1年の1/4しか経っていないのに「今年のマイベストゲーム」と言うプレイヤーが続出する人気作・実力作です。

美少女ゲームの評価・批評サイトである「ErogameScape—エロゲー批評空間—」¹では、まれに見る高得点をマークし、遠慮無く100点を付ける人も多いほど。

そして、私の耳に届くのは、うわごとのように「ま～姉ちゃん、ま～姉ちゃん…」と唱える声。弟溺愛お姉ちゃんがいるなら、自分も可愛がってもらわにゃ、そのま～姉ちゃんも寂しがってるに違いないと駆け出しました。

■丸戸シナリオ炸裂

敬虔な年上信者、特にママ属性なら、2004年秋の『まもらぶ』は経験済みのことと思いますが、パルフェは同じ丸戸史明氏による脚本です。ということは何を意味するか。答えは、シナリオで買いたいということ。一度まもらぶの世界を支えるあのシナリオを読んでしまい、すっかりあの居心地の良さを味わった人なら、そろそろ丸戸シナリオの禁断症状が現れるはず。私がそうでしたから。

何が良いかって、まず第一に、人がみんな温かい。お互いがお互いに幸せになれるよう考えていて、でもすれ違いもたまにはあって、それでもお互いを思う気持ちがあるからこそ、最後にはうまくかみ合って。一人はみんなのために、みんなは一人のために。私が氏のシナリオを読んだのはまだ2本目ですが、これらが（表現上のズレこそあれ）丸戸先生の追っているテーマなんだろうと思っています。

第二に、どんなキャラクターでも、その個性が遺憾なく表現されていること。まだまだな脚本家だと、「姉だからこう言わせておけばいい」と乾いたテキストに陥りがち

¹

http://erogamescape.dyndns.org/~ap2/ero/toukei_kaiseki/
多種多様な評価が読め、信頼に耐えるサイトです。

なのですが、氏の場合はそのキャラクターの個性がまず先にあって、それが姉なら姉の記号に沿った味付けがされている、そんな印象を受けます。「弟を溺愛する姉」と一口に言っても、十人の姉がいれば十人の溺愛の仕方がある訳で、「この人は姉だから」ではなく、「この人はこんな人で、そして姉だから」と描かれている所が素晴らしい。もっとも、ご本人はキャラクター属性のような、ある意味野暮な要素は考えずに、一人一人の個性を第一に描いているのかも知れませんが。

第三に、テキストセンスがあること。尖ったところもなければ、背伸びした言い回しもしない。基本は王道のストーリーなのに、少しも卑屈になったりせず、素直に読み手を引っ張ってくれるテキストは、読んでいて退屈しません。笑いの要素もたっぷり、寒いところも無し。

パロディの入れ方もちょうど良い塩梅です。ただ、若干ターゲット年齢層が高めな気も(笑)。

全姉連としては珍しく姉要素以外の批評が長くなりましたが、良き脚本なくして良き姉ゲーはありえませんから。

絵、音楽、システム回りに不満らしい不満はありません。立ち絵は安定しているし、BGMはピアノ曲が豊富で、しゃれた喫茶店を舞台とする本作の雰囲気合っています。

進行は、前半は一日ごとに行き先を選ぶオーソドックスなスタイル。フラグによって決定されたヒロインごとのシナリオが後半に展開されます。長さも過不足なし。親切なゲームシステムも用意されていて、パルフェを楽しむ上で障害になりません。

一から十までべた褒めですが、正直に良いと思える1本なので、思った通り書いてます。不満な点を見つけることすら難しいんですよ。

■キャラクター

・杉澤恵麻（義姉）

いとこのお姉さんで、小さい頃養子として引き取られてからは生活を共にするお姉さんで、主人公の兄（今は故人）と結婚したので三重の姉という、姉づくしの関係。大学二年生の主人公の三歳年上。

性格はおっとり型で、朝の超低血圧っぷりが日中も尾を引いているんじゃないかと思われるお姉さん。かといって、天然ボケまでは行かないしっかり者で、弟とケーキ作りが大好きな天才パティシエールです。

では、肝心のお姉さん度はというと、結論から言えば、自分の姉遍歴にも、また姉萌え史にも燦然と輝く本格派お姉さんでした。ま〜姉ちゃんは、ずっと忘れられないお姉ちゃんとなるでしょうし、私の姉人生に影響を及ぼし続けるでしょう。それくらい非常に魅力的なお姉さんであります。

まず、何と言っても「弟好き好き溺愛系」であること。壮絶な甘やかし系ではなく、弟の姿を見るやいなや抱きついて離れないような愛し方ではありませんが¹、しかし愛し方がぬるいことを意味しません。常に弟のことを考えてくれていて、「姉ちゃんは、弟のためだったら、なんでもする」と言ってくれたりして、弟の恋の応援もするけど、本当は姉ちゃんが世界で一番愛しているんだからね、と心の中で思っている…時々その思いが溢れて手が付けられなくなっちゃうけど…、そんな溺愛の仕方をするお姉ちゃんなのです。

そういうお姉ちゃんであれば当然庇護欲・独占欲も強く、弟が再開させた喫茶店の様子が心配になって、バレバレの変装で見に来たり、ライバル店の店長からのちょ

¹ 「姉しよ」や「おねきゅー」ほどコメディ色が強いゲームではないので、周囲から浮きまくる溺愛はありません。

っかいに対して盾になってくれたり、別のヒロイン攻略中に、そのヒロインがうっかり「お姉さん」とでも口にしてしまおうものなら、あなたにお姉さん呼ばわりされたくないと言外ににじませるような小姑ぶりを発揮したり。もうどうしようもないブラコンを見せつけてくれます。

一旦スイッチが入ってしまうと「弟溺愛モード」が発動していまい、弟がどれだけ可愛くて、愛しているかを語り出し、止められなくなる病気も持っていますが、弟は弟でとんでもないシスコン病の持ち主なので問題無し。周囲から「このシスコン！」とからかわれても、何をう！と反応するくらいで否定しないもんだから、救いようがありません。ブラコン姉とシスコン弟が一線を踏み越えた後の極甘状態もきちんと用意されているので安心です。

以上のように、お姉ちゃんとしての完成度だけでも非常に評価が高いのですが、それをさらに増幅させるストーリーも秀逸。ま〜姉ちゃんは、主人公の兄（エリート）と結婚するのですが、結婚後まもなく未亡人となってしまう、オープンした喫茶店も火事で失ってしまいます。絶望の淵でもがく姉に、兄の面影のある主人公は、自分が代わりに支えようと頑張り始めます。ここで三流脚本家なら、「兄の代役から一人の男へと脱皮する姿にいつしか情が移って…」とでも書くんでしょうが、丸戸シナリオは安易な話に流れません。比べるのもおこがましいくらい、超弩級で震撼で戦慄のストーリーが待ち構えています。「Crescendo」のあやめねーちゃんシナリオも相当な業の深さでしたが、あれを上回るんじゃないかというくらい危険な姉弟モノに仕上がっています。

お姉ちゃんの愛に感動して打ち震える経

験なんて、これだけ姉ゲーを続けていても、そうそうできることではありません。ま〜姉ちゃんに出会うためだけでも、本作を始める理由として十分です。一人でも多くの弟が、ま〜姉ちゃんの愛を受け止めてあげてください。

・涼波かすり（年上スタッフ）

以前からのファミリーのスタッフで、再開にあたり、実家から連れ戻してきた、少し年上のパティシエール兼ウェイトレスさん。老舗の和菓子屋のお嬢様でありながら洋菓子に興味を持ち、名も無き小さな喫茶店の力となってくれるお姉さんです。

気さくな性格で誰とでもうち解け、とぼけた風味もある、器用なお姉さん。ま〜姉ちゃんに次ぐ年上キャラですが、積極的に年上をアピールしたりお姉さん風を吹かせることまではしません。常に薄く広く年上要素を漂わせる感じです。ここぞ、という場面では見せつけてくれるので、姉要素を期待してもきちんと応えてくれるでしょう。

「悩み事？なんなら相談に乗ろうか？わたし、おねーさんなんだしね？」

「そう、いいコね。それじゃ力を抜いて、お姉さんに全てを任せて」

なお、かすりさんには姉の紬さんがいるのですが、こちらも妹溺愛姉で、ま〜姉ちゃんとのきょうだい自慢ゲンカを繰り広げたりと愉快的な姉さんです。

・花鳥玲愛（ライバル店チーフ）

ま〜姉ちゃんが極上の姉属性なら、こちらは極上のツンデレ属性。金髪碧眼ツインテールで、筆者のツボを突かれているのはさておき、全ツン連ならば間違いなく今年の大賞を受賞するでしょう。ツンデレへの夢が一杯詰まった女の子です。

立場上は強豪ライバル店のチーフウェイ

¹ 弟を思うあまりの勘違いに過ぎない。

トレスで、表面的には犬猿の仲。性格は真面目で義務感と責任感の塊。しかし融通が利かない訳ではない彼女は、心の中でファミリーのことを気にかけたりもします。主人公から見て、決して敵とは描かない所が本作の良い所で、玲愛がどんなにツンツンしていても愛おしさを感じ続けることができるのです。強気に出られると弱い貴弟なら、玲愛にもきつとはまることでしょう。

・風美由飛（新人ウェイトレス）

オープン直前に飛び込みで採用されたばかりの新人ウェイトレス。天真爛漫で明るく、前向きな性格の持ち主で、自然と人を惹き付ける天性から看板ウェイトレスとなります。そそっかしくて、ちょっとあどけないところも見え隠れするのが魅力。

割とすぐに露見するので隠しませんが、玲愛とは血の繋がらない姉です。事情があって、こじれた関係の姉妹に陥っている二人が、後半のテーマとなっています。従って、玲愛シナリオと密接に関係するので、この二人はセットで進めるといいでしょう。姉を思う妹と、妹を思う姉と、二つとも読み取らないと、この姉妹の良さは伝わりません。

・雪乃明日香（ウェイトレス兼教え子）

アルバイト 1 年目の女子校生。主人公との関係は、バイト先の店長であり、家庭教師のセンセ。

ポジションは年下ですが、しっかりしていて積極性もある子なので、妹臭さは無く、姉原理主義者でも可愛がることができますでしょう。意外と巨乳だったりするところが姉属性にも優しい仕様となっています。

まだ年下の女子校生ゆえ、スレたところはない素直な子で（でも策士）、とことん主人公になついてくるなど、さすがに姉属性の期待するところは見せてくれませんが、

たまには「物欲しげな目で見上げられる」経験も悪くはないと思いますよ？

・夏海里伽子（大学の友人兼元チーフ）

主人公の大学の友人であり、焼失前の店のチーフ。何でもこなせて、頭の回転が速い名参謀。態度はクールで、情に流されにくい、結局は面倒を見てくれる優しい一面がある。「もう、仕方ないなあ、仁は」が性格をよく表している名台詞。

お店が再出発したにもかかわらず、曖昧な理由をつけて復歸したまらない。彼女が一度主人公を振ったことと関係するのか、よく分からないまま進行していきます。

彼女のシナリオは、とてつもない凶悪な爆弾が仕掛けられているので、攻略は一番最後に。好きな物は最後に残す派だから、ま〜姉ちゃんを最後にしようと思っても、里伽子だけは例外です。里伽子をラストにすることがパルフェを全部楽しむためのポイントです。ネタバレ直結なので深くは言えませんが、覚悟して楽しんでください。

■2005 年最有力候補

既に各方面から評判となっていた本作ですが、以上のように全姉連としても最上級レベルで推薦します。ま〜姉ちゃんの弟好き好きだーい好き光線を一身に受け止めてあげてください。ま〜姉ちゃんの本心を受け入れてあげてください。この先も忘れられない思い出ができることでしょう。

ま〜姉ちゃんだけクリアして放置するのももったいないですよ。姉と弟ならこれくらい普通とばかり言い張られて、周囲から過剰な姉弟愛と呆れられたりとか、弟のためなら見境なくしちゃったりする姿とか、ま〜姉ちゃんの出番は全編に渡っていますから。そんなこと言われなくてもコンプリートしたくなる良いゲームですけどね。

何とか1年ぶりに正式な新刊が出せました。

一時は諦めムードにもなったものの、こうして形にできたのは、放っておけない姉タイトル群が私にやる気を起こさせたから。時間的にかなりきついスケジュールでしたが、短期間に集中して姉成分を補充できて満足もしました。

まだ他にも取り上げたい作品があったのですが、今回はこれが限界。でも、最低限取り上げたかったタイトルは全部原稿にできました。

12月6日の「姉の日」は、母の日・父の日に次ぐ国民的行事にしても良い頃だと思いませんか？その12月に姉属性のためのWebイベント「お姉ちゃん祭り2005」が開催されました。(http://anedaisuki.kko.jp)。

今年もおかげさまで大盛況。開催期間が過ぎても会場は残されていますので、ぜひ訪れてみてください。

それではまた、サイト上で、あるいはオフラインでお会いしましょう。

全姉連会報 第4号

発 行： 全姉連 総本部

発行日： 2005年12月30日

著 者： 全姉連総裁

連絡先： sousai@zenaneren.org

全姉連総本部 <http://www.zenaneren.org/>
(mobile : <http://www.zenaneren.org/a.cgi>)



本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。ここにお礼申し上げます。

